

# 二年三カ月の協力活動を

## ふり返って

### 「モロッコそして

#### 私の街都留市」

私は約二年間、測量の技術協力の為、アフリカのモロッコという国へ赴任し、去る七月二十日に故郷の街都留に帰ってきました。

モロッコという国から連想されるもの、カサブランカ・外人部隊・そして砂漠、夏は50℃以上にもなるそんな国にも四季はあり、冬には雪も降り、スキーのできる所さえあ

ります。緑と砂漠、暑さと寒さの同居した国、食べ物の違い、言葉の違い、そして風俗習慣の違いの中での厳しい生活、また、測量作業。

現地の人々と一緒に生活し体験を通じてはじめて、その国を知ることが出来る。友達になれる。私にとっては学ぶことの方が多かった二年間でした。

交通機関が発達し、海外へと視野が広がる国際化時代のなか、日本が何をすべきなのか、都留に住む若い人々も機会があれば、海外に行き、異



△鉦山の細部点測量

文化に接してみてもどうでしょう。何かをきくと学びとることができると思います。

青年海外協力隊  
モロッコ派遣  
中央二丁目 佐藤 明弘



九月十三日、文化会館で第六回市民健康づくりの集いが開かれました。

### 健康づくりに関心を深める

△ アトラクションとして行われた和楽会のおはら節踊り

集いでは、前山梨県医師会長竹居茂樹先生の「自己の健康管理について」と題しての講演がありました。そのほか、医師、保健婦、栄養士による健康相談や磯部先生による乳ガン検診も行われました。また、アトラクションとしての舞踊や健康体操の指導もあり、参加者は、健康について学びながら、楽しい一日を過ごしました。



## 図書館の充実 蔵書と200万円を

— 中大路夫妻が寄す —

な蔵書二千冊をも併せて寄贈したいとの申出がありました。市では、中大路御夫妻の意向を十分反映するため、短歌関係の図書を中心とする文学書の購入計画を進めており、寄贈される図書を併せて、「須曾乃文庫」として短歌中心のコーナーを設けることにしています。

図書館では「短歌関係の勉強なら全てこのコーナーでできる」というような特色ある配置を心がけたい」と計画しています。

御夫妻は「須曾乃」を発刊して四十六年にもなりますが短歌の研究と短歌を通しての文化振興に多くの功績をあげており、季武さんは昭和五十一年に山梨県政功績者として、千代さんは五十七年に実賞を受賞しています。

なお、季武さんは、数年の入退院生活を経て全快し、多くの方にお世話になったことの返礼の気持ちを含め、又結婚五十一年の記念に、と話しておられますが、ますますお元気で活躍していただきたいものです。

図書館に、短歌文学を中心とする特異なコーナーがお目見えし、市民に広く親しまれることになりました。